

# 銀杏坂タイム

◎ 仙台市 こども若者相談支援センター  
所長 星 恭典  
仙台市青葉区錦町 1-3-9  
Tel.022-214-8602(相談支援係)  
022-214-8848(青少年指導係)  
第 162 号 令和 6 年 1 月 11 日

## 関係機関職員研修会があります！

教育・福祉や子ども若者支援の現場で抱える課題についての対応を考えるきっかけとするため、毎年、当センターでは研修会を実施しています。今回は明治大学 文学部教授 諸富 祥彦 先生を講師に招き、子どもたちの不登校に関する現状や心情への理解を深め、よりよい支援の在り方を学ぶとともに、諸富先生がモットーとされている教職員や支援者を元気にする話が内容の柱となっています。

仙台市立学校には校務支援システム (C4th) にて、関係機関の皆様にはこの広報紙と研修会用の添書 (裏面に FAX 送信票があります) を発送していますので、ぜひ内容を御確認のうえ、参加していただけますと幸いです。

- 1 日時 令和6年2月20日(火) 15:00~17:00 (受付開始 14:30)
- 2 会場 オンワード樫山 10階会議室 (仙台市青葉区二日町 12-34)
- 3 内容 **講話**  
**「不登校の子どもたちへのよりよい関わり方  
~大人も元気であることの大切さ~」**  
**講師 明治大学 文学部教授 諸富 祥彦 先生**
- 4 対象 仙台市内にある幼稚園・保育園や小中高等学校の教職員  
仙台市内の子ども若者を支援する関係機関の皆様  
仙台市子ども若者地域支援連絡協議会の構成団体の皆様等
- 5 定員 100名程度 (先着順)
- 6 参加費 無料
- 7 申込み ①所属・職名②氏名(ふりがな付き)③電話番号を記入のうえ、申し込みください。  
(1月15日(月)より開始 2月16日(金)〆切)



- \* 仙台市立学校の皆様は、C4th、Outlook メール、Fax を利用ください。
- \* 関係機関などの皆様は、Outlook メール、Fax を利用ください。
- \* 市役所職員の皆様は、デスクネッツ、Outlook メール、Fax を利用ください。

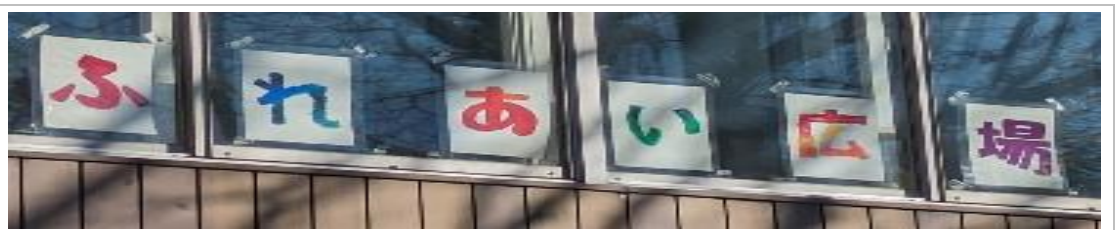
- 8 その他
  - ・会場にお越しの際は、公共交通機関を利用ください。車でお越しの際は、市役所駐車場は利用できませんので、ご了承ください。
  - ・本研修会は市民セミナー(保護者向け)ではなく、教職員・関係機関職員や支援者の皆様を対象として開催いたします。

# ふれあい広場や相談支援について紹介します

ふれあい広場では、12月15日にクリスマス会を開催しました。通所者同士で協力しながら広場の装飾を行い、当日を迎えました。プログラムの前半にはバーテンダー水戸さんによる職業講話とソフトドリンク作成体験がありました。水戸さんが大切にしている「お店に来るお客さんの話をしっかり聞くこと」「お仕事を頑張ったら楽しめる（余暇）時間を持つ大人になること」について通所者にも分かりやすい語り口で伝えてもらいました。体験の時間では、水戸さんのさっそうとした姿に、惹きつけられました。通所者は水戸さんからの「まずやってみよう」の声に背中を押され、ソフトドリンクづくりに試行錯誤して取り組みました。やはり本物との出会いというもののはかけがえのないものです。後半のホットケーキ作りやビンゴゲームも大いに盛り上がっていました。



愛宕上杉通から見える「ふれあい広場」の表示のリニューアルに向けて、通所者に声を掛けたところ、色塗りチームが出来上がり、あっという間に新しい表示を完成させました。「自分たちの居場所を自分たちの力で良くする」ことにこれからもチャレンジさせていきたいです。



センター名の変更に伴い、電話・面接などの相談支援の対象年齢が39歳までの本人やその保護者等に拡充されてから9ヶ月が経ちました。子ども若者電話相談には、昨年度同比で倍を超える相談が寄せられ、「精神不安」「就労・就職」「交友関係」に関する内容が大幅増になっています。子ども若者面接相談では、昨年度に引き続き「不登校」「引きこもり」に関する多くの相談について丁寧に応じ相談者と一緒に方向性を考えています。また、「就労・就職」の面談では、相談者の不安に寄り添いながら、ケースに応じて、ハローワークや就労支援事業所に同行したり、支援機関との関係性や進捗を確認したりする支援を行っています。

また、1月下旬に市立中学校を中心として「中3生サポート」に関する文書を発出します。ご希望に沿って、順次ケース会などに加わり、当センターでできることを共有していきます。前号でお伝えした札幌市若者支援総合センターの松田考さんをお招きした研修会でも「15歳の壁を乗り越える支援」が話題に上がりましたが、支援の切れ目が生まれないう、取り組んでいきたいと思います。